

当初案「奥平信昌と加納城」改め...

「奥平家と美濃加納城」

ー長篠・新城と岐阜・加納の数奇な関係ー

水野 義之

国史跡加納城跡保存・活用推進フォーラム

<https://kanoujo.org/>

京都女子大学名誉教授

2025/08/30 (土)



「戦国博覧会」(長篠合戦450年/新城市政20年) @愛知県新城市
(亀姫没後400年、奥平信昌没後410年) (2040年: 加納町岐阜市合併100年)
没1625年、 没1615年

はじめに

- 戦国博覧会の「ワークショップ」(主催: 新城市・新城市教育委員会)
- 新城の会場(現地) + 岐阜の会場(遠隔)
 - 我々: 岐阜市の登録市民団体。「よみがえれ加納城」
 - 「国史跡加納城跡保存・活用推進フォーラム」(加納城フォーラム)
- 今年度(R7)岐阜市市民活動支援事業に採択
 - 岐阜市: 「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜
 - 是非 観光で、奥平信昌公と縁が深い岐阜と加納へ
 - 岐阜市「いざナビ」(道案内マップ)作成

もくじ

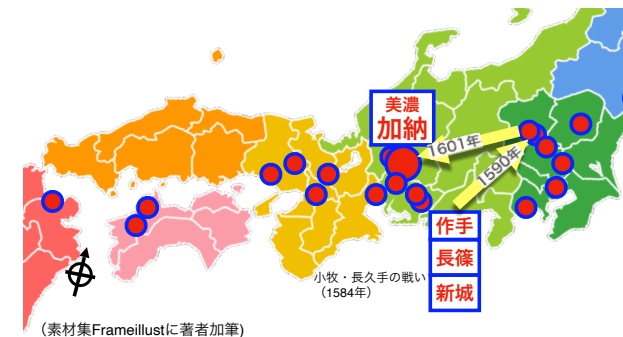
- 奥平信昌とは (今日のテーマ)
 - 美濃の加納とは (どういう場所?)
 - 加納と奥平氏のつながりを探る
- 各地の奥平氏と美濃加納(中津、宇都宮、作手、小幡、長篠・新城、忍、小田原)
 - まとめ

1. 奥平信昌とは (今日のテーマ)

奥平信昌とは (新城市Webページ)

- 天正3年(1575)の長篠の戦い。長篠城主であった奥平貞昌は、家臣である鳥居強右衛門等の決死の働きにより城を死守しました。
- この功績により、翌年貞昌は、信長から一字をもらい信昌と改名し、郷ヶ原に新城城を築きました。同年12月、信長のとりなしで家康の長女亀姫をめとり、4男1女をもうけました。信昌の新城築城は、現在の中心市街区を形成する基礎となり、「新城」の地名の由来にもなっています。
- 奥平家のふるさは群馬県吉井町下奥平にあります。8代貞俊の時、作手村に移り、12代貞能、13代貞昌は、今川、徳川、武田に属しながら戦国の世を生きのびました。長篠・設楽原の戦いを経て、新城城主となった奥平信昌(貞昌)は、天正18年(1590)家康の関東入国と同時に上州宮崎(群馬県富岡市)に移り、その後、初代京都所司代となり、慶長6年(1601)岐阜加納10万石の大名となりました。加納では、城下の整備や治山治水事業につとめ、元和元年(1615)61歳で死去しています。
- 加納奥平は3代で絶えますが、宗家にあたる宇都宮奥平は家昌・忠昌・昌能・昌章と続き、昌成のときに豊前国中津10万石の大名として迎えられました。藩主は、昌成・昌教・昌鹿・昌男・昌高・昌暢・昌猷・昌服・昌通と続き、最後の昌通は華族令(後略)

今日の話は..... 奥平氏: 長篠・新城その後

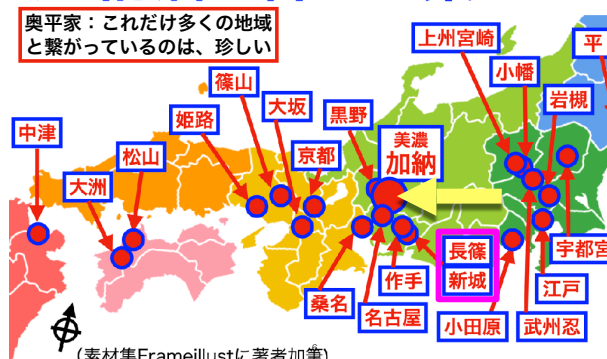


(素材集Frameillustに著者加筆)

今日のテーマ:

- 疑問1(理由): なぜ奥平家は、ここまで多くの地域と、繋がっているのか?
- 疑問2(関係): その事実と、美濃の加納は、どういう関係に、あるのか?
- 疑問3(事例): 奥平家と各地のつながりは、具体的に、どういうものだったか?
- 今日は、この3つの疑問に、答えたい

加納という地域はどこにあるか? 加納藩と各地の繋がり



(素材集Frameillustに著者加筆)

2. 美濃の加納とは (どういう場所か?)

加納=加納藩 城下町(10万石)
+ 中山道 宿場町(美濃最大)

加納城跡とは



加納藩 初代：奥平信昌と亀姫

徳川家康の長女

- 徳川に付く。忠誠を尽くす
- 長篠合戦の籠城戦で大功績
- 関ヶ原合戦の直後、中山道の構想（家康）
- 「平城」の守り：奥平信昌
- 長篠と加納の関係は必然的
- 家康 自ら「縄張り」
- 天下普請（5大名）／13
- 本多忠勝：普請総奉行
- 徳川二十八神将の一人

亀姫(家康 長女)

奥平信昌



『武田三代軍記』『九八郎(信昌)は若年なりといえども、心剛にして然も博学多才なれば、...』

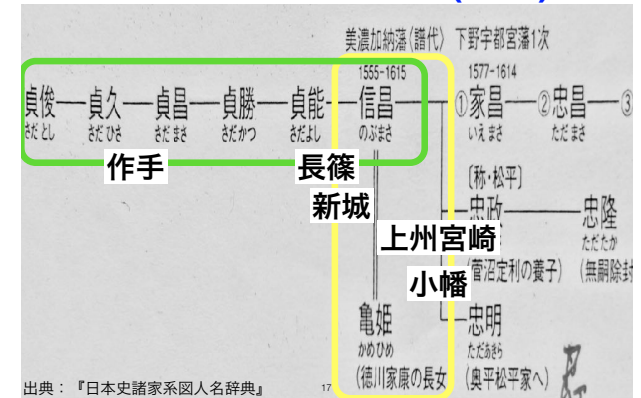
奥平家と加納の繋がり

代	名	生年月	没年月	備考
初代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
二代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
三代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
四代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
五代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
六代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
七代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
八代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
九代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
十代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
十一代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
十二代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
十三代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
十四代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
十五代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
十六代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
十七代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
十八代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
十九代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
二十代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
二十一代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
二十二代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
二十三代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
二十四代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
二十五代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
二十六代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
二十七代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
二十八代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
二十九代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
三十代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
三十一代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
三十二代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
三十三代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
三十四代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
三十五代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
三十六代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
三十七代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
三十八代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
三十九代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
四十代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
四十一代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
四十二代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
四十三代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
四十四代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
四十五代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
四十六代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
四十七代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成
四十八代	信隆	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信隆
四十九代	信昌	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信昌
五十代	信成	天保元年(1830)	明治元年(1868)	奥平信成

3. 加納と奥平氏のつながりを探る

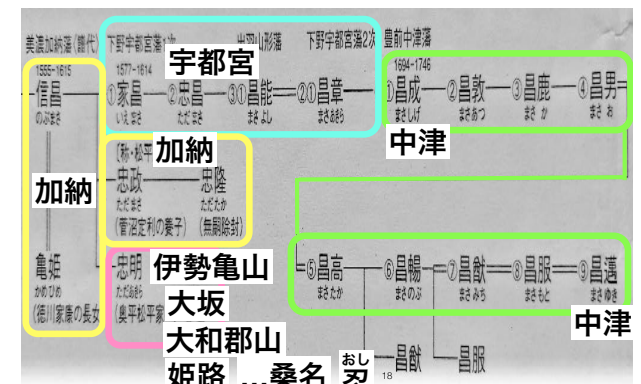
14

奥平家の家系図 (一部)



出典：『日本史諸家系図人名辞典』

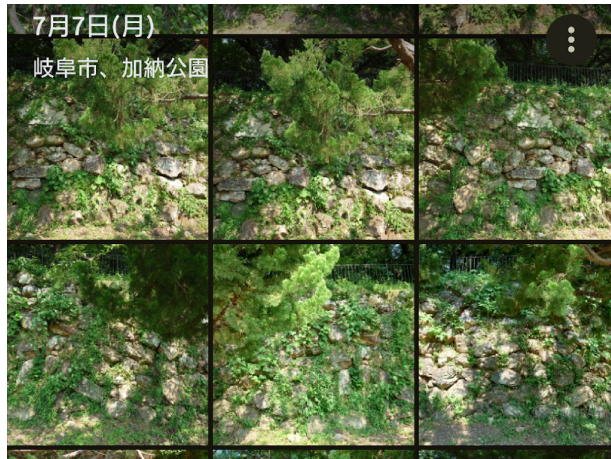
奥平氏の家系図



奥平氏と岐阜市の加納



7月7日(月)
岐阜市、加納公園



7月16日(水)
岐阜市



大分県中津

亀姫と奥平信昌が
家系図トップに



資料：中津市歴史博物館

三河国 作手の奥平氏（加納の写真）



武蔵国・行田の
忍藩と奥平氏

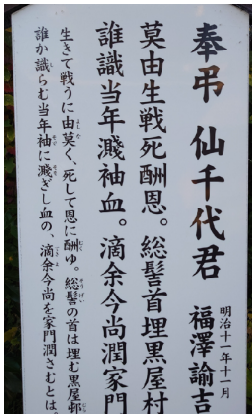


信長は柵と縄を岐阜から運んだ

信長は、13日岐阜を出発し、18日家康と共に設楽原に着き、連吾川の西岸に馬ふせぎの柵の構築・諸将の布陣に着手した。

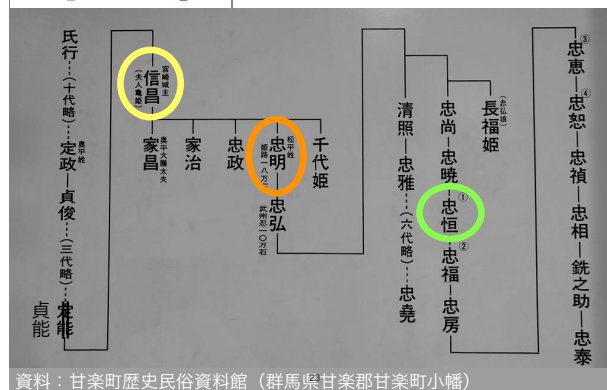
資料：長篠城址史跡保存館（新城市）25

奥平神社：貞能, 信昌, 家昌, 仙丸



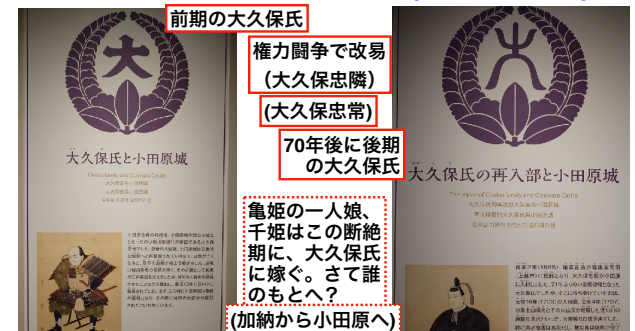
1570年 作手で「一族二分」密談人質：仙千代(仙丸)[貞能の子、信昌の弟10歳]。武田勝頼の人質[信昌の妻 於フウ13歳+虎之助13歳]。信玄の死後 貞能と信昌は徳川に寝返る(祖父貞勝ら多数残留)。武田勝頼 激怒→切腹・処刑。「多くの苦渋と犠牲の上にもたらされた長篠合戦の功績と亀姫との結婚」(野村武男『徳川家康の孫娘仙姫』) 大分県中津でこの漢詩が書かれた

群馬県 小幡の(奥平)松平氏



資料：甘楽町歴史民俗資料館（群馬県甘楽郡甘楽町小幡）

小田原合戦(1590)で北条氏滅亡=秀吉の全国統一。小田原は大久保氏に。秀吉→家康を関東移封+ (信昌も同行)

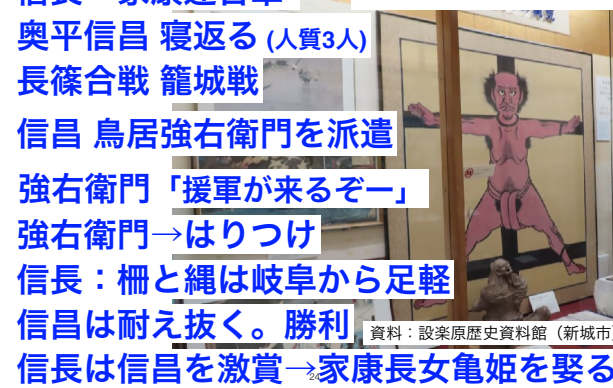


栃木県宇都宮 奥平家と宇都宮藩

江戸時代の宇都宮城	城主名	読み	石高	転封前	就任	退任	転封後	できごと
23	浅野 長政	ながまさ	—	—	1597	1598	城代	
24	蒲生 秀行	ひでゆき	18万	陸奥国会津	1598	1601	陸奥国会津	関が原の戦い
25	大河内金兵衛	きんべい	—	—	1601	1601	城代	
26	奥平 家昌	いえまさ	10万	上野国小幡	1601	1614	—	
27	奥平 忠昌	ただまさ	10万	—	1614	1619	下総国古河	初の日光社参
28	本多 正純	まさずみ	15.5万	下野国小山	1619	1622	改易	釣天井伝説
29	奥平 忠昌	ただまさ	11万	下総国古河	1622	1668	寛文の社参	
30	奥平 昌能	まさよし	11万	—	1668	1668	出羽国山形	
31	松平 忠弘	ただひろ	15万	出羽国山形	1668	1681	陸奥国白河	浄瑠璃坂の仇討
32	本多 忠泰	ただひろ	11万	陸奥国白河	1681	1685	大和国郡山	
33	奥平 昌能	まさよし	10万	出羽国山形	1685	1695	—	
34	奥平 昌成	まさしげ	9万	—	1695	1697	丹後国宮津	
35	阿部 正邦	まさくに	10万	丹後国宮津	1697	—	—	
36	阿部 正邦	まさくに	10万	丹後国宮津	1697	—	—	

資料：宇都宮城跡資料室 パネル

武田勝頼 vs. 信長・家康連合軍 長篠・新城



資料：設楽原歴史資料館（新城市）

加納城主(藩主) 歴代一覧

資料典拠：『加納町史』、田中豊編『加納町史に見る歴代加納藩主の事』

代	城主	任命	在任期間	石高	備考
1	奥平信昌	美作守	慶長6(1601)~慶長7(1602)	1 10万	上州宮崎より
2	松平忠政	摂津守	慶長7(1602)~元和元(1615)	13	—
3	—	飛騨守	元和元(1615)~寛永9(1632)	17	死没継嗣なし
4	大久保忠勝	加賀守	寛永9(1632)~ 同 16(1639)	7 5万	小幡より 転へ
5	松平光重	丹波守	寛永16(1639)~寛文8(1668)	29 7万	—
6	—	—	寛文8(1668)~宝永2(1705)	37	—
7	—	—	宝永2(1705)~正徳元(1711)	6	山城定へ
8	安藤信友	対馬守	正徳元(1711)~享保17(1732)	21 6万5千	備中松山より
9	—	—	享保17(1732)~宝暦5(1755)	23	—
10	—	—	宝暦5(1755)~ 同 6(1756)	1 5万	奥州磐城平へ
11	永井直陳	伊賀守	宝暦6(1756)~ 同 12(1762)	6 3万2千	武州岩槻より
12	—	—	宝暦12(1762)~明和6(1769)	7	—
13	—	—	明和6(1769)~寛政2(1790)	21	—
14	—	—	寛政2(1790)~天保10(1839)	49	—
15	—	—	天保10(1839)~文久2(1862)	23	—
16	—	—	文久2(1862)~明治2(1869)	7	明治維新

まとめ

最初の疑問に答えられたか？

28

疑問1(理由)：なぜ奥平家は、ここまで
多くの地域と、繋がっているのか？

- ・一地方豪族だった奥平氏（家名を残す努力をした）
- ・奥平氏「12代貞能、13代貞昌は、今川、徳川、武田に属しながら戦国の世を生きのびました」（新城市）
- ・「多くの苦渋と犠牲の上にもたらされた長篠合戦の功績と亀姫との結婚」（野村武男『徳川家康の孫娘仙姫』）
- ・奥平家では江戸時代も先祖を偲ぶ会を毎年催した
- ・中津の福澤諭吉「奉弔仙千代君」先祖の苦勞の理解と伝承
- ・中津の奥平宗家：5/21「たにし祭り」今も継続

31

疑問3(事例)：奥平家と各地のつながりは、
具体的に、どういうものだったのか？

- ・各地の奥平氏と美濃加納：中津、宇都宮、作手、小幡、長篠・新城、忍、小田原
- ・奥平信昌：作手、長篠・新城、小幡、(関ヶ原)加納
- ・加納の奥平：信昌、忠政、忠隆、（4歳早世）
- ・奥平家昌(嫡男)：宇都宮、中津
- ・[奥平]松平^{ただあきら}忠明：伊勢亀山、大坂、大和郡山、姫路、桑名、... ^{おし}忍
- ・千姫と大久保氏：小田原、加納

29

長篠・新城と岐阜・加納の数奇な関係

- ・1575年：信長は岐阜城にいた
 - ・5/13-18：岐阜から長篠まで馬防柵を運ばせた
- ・1601年：岐阜城を破却→加納城の一部になった
- ・270年間：岐阜城＝古城跡。加納城だけが城。
- ・(岐阜城を介して)長篠と加納が繋がる
 - ・(直接)奥平信昌＝加納から見ると初代加納城主
- ・加納城再建を目指す団体：岐阜市市民活動団体指定、市民活動支援事業（令和7年度）
- ・「国史跡加納城跡保存・活用推進フォーラム」

疑問2(関係)：その事実と、美濃の加納
は、どういう関係に、あるのか？

- ・奥平信昌：作手(20年)、長篠(2年)、新城(14年)、小幡(10年)、(関ヶ原)、加納(15年)：61歳（加納は安住の地）
- ・亀姫：家康の正妻築山殿の長女、幼少期は人質、救出、母と実兄信康を失う、政略結婚(家康と信昌の取引)16歳、新城(14年)、小幡(10年)、(関ヶ原)、加納(25年)：65歳（加納は安住の地）
- ・奥平信昌と亀姫の墓所：岐阜市加納^{せいとく}の盛徳寺(水野家から500m)
- ・加納には徳川町も奥平町もある(光国寺と盛徳寺)^{こうこく}
- ・千姫と大久保氏(小田原)：加納、（大久保氏の安泰へ）
- ・亀姫は病床で「大久保忠職^{ねんご}の懇ろ」を家光に懇願、蟄居の赦免^{しんご}

30

まとめ

- ・今日のお題：当初案「奥平信昌と加納城」改め...
「奥平家と美濃加納城」
- ・副題「長篠・新城と岐阜・加納の数奇な関係」
- 1. 長篠合戦の後...^{1590小田原合戦}信昌:新城→上州宮崎→京都→加納(10万石)藩主^{1600関ヶ原合戦}
 - ・奥平信昌はその後どうした？奥平家はその後どうなった？
- 2. 全国の奥平家の足跡を辿ってみた（私が）。非常に数が多い
 - ・中津、宇都宮、作手、小幡、長篠・新城、忍、小田原
 - ・なぜ多い？加納との関係？例えば？
- 3. 結論：長篠と加納の関係理解を通して、奥平家の特殊事例は、一般性のある理解に繋がるのではないかな(作業仮説)